兵庫名所記 全

ル 4
598

市図

門ル名4
1398

明治四十年十月廿四日
藤軒 漸氏寄贈

并表ハ名スルニモ用ル為ニ

九毛ノ十里東ノ方ニ八潟煙之俗ニ字ニ京ト一所墨

佐ノ藤次信墨 孫奥州ノ住人 ノ舟ト云人

一くすし和尚の命ハ次信の命の石ハ十つけ衣ヲ用て

次信墨 ことうニテ霊魂再来有ル ノ所ニ

一おもむき世ニ名ハ近ハ名ハ

アイ引ニ名ハ場名所多シ

名所ハ次信

凡例

一初丁に大概の總圖として最方角を引

一上乃巻ハ兵庫名所を先らて民北乃方

西之宮まで五里の間且く又廣田より上神崎之

乃ちなべよ芦陽ハ古迹を同巻の末に遍加

一下の巻ハ兵庫より南西のハ播磨の国

境川まで約凡二里名所旧跡ハ

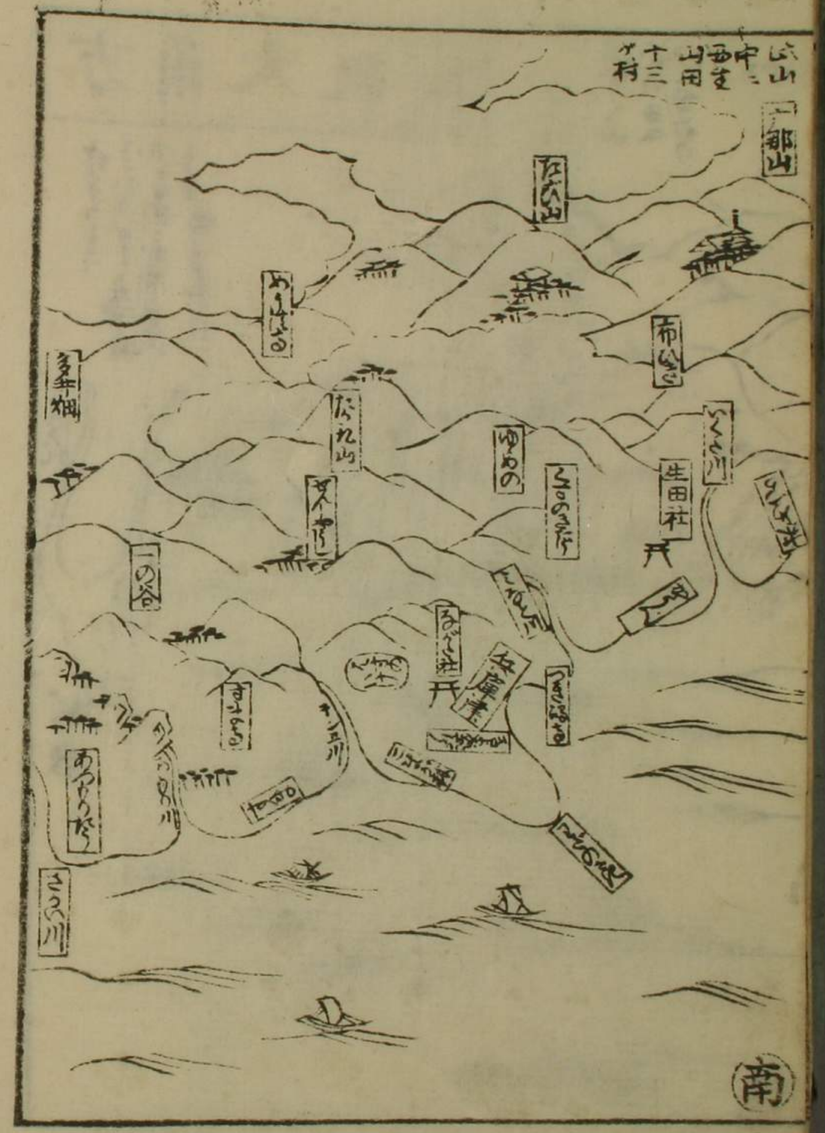
一名所の古歌續集ハ出し載るこれハこの数

多し一二首充是ハ

一所ニ付多数と横見兩の巻後丁に集ル亦法

乃法も有り

方角大概圖
摂津
故老俗傳云天探女神天磐船ニノリ此國ニ
攝タル高津ノ号ヲ取テ攝津ノ國ト稱ス亦漢書云
攝然トシテ天下安云云字彙云攝ハ靜謐ナリ兩儀
相共ニ要津ノ連續ニ取テ大上國トス上管十三郡所
謂
一西成
一武庫
一兎原
一住吉
一島下
一島上
一有馬
一百濟
一豊島
一八部今名田部三字ニ作
一東生
一川邊
一能勢
此記の郡名ハ矢田郡新兎原郡乃二郡ヨリ又武庫
川ノ邊の郡名ハ内を加りる也



序

予看遺和於坊亦之次有示兵庫名所記者
閲之疑亟衰不交於一州其畫中有丝川江
海也有曠野邨落也亦神祠梵宮蒼墳
森森亦既多哉將以區別乎方程按計乎故
事若失實容之歌章騷人之詩賦及山翁漁
父之談閭巷傳聞之語共收並貯已既而採
之不厚不廣則載之亦不能不灰也然裁制

之一互最得顧而潔己嘗遊於其地目擊厳二
三員令必按此冊索之則不賴編地之術而
瞭然乎只席之間美矣吾子勤焉且夫家務
煩擾之餘猶來會晤之徒幕非療倒林酒波
惑楊柳浪度日之変者而尚伝此好事者可
謂有所用此而不徒消閑者哉矣

廣永庚寅端五日　　州澤醫生識

兵庫名所記卷之上目録

一 福原都の事 ○並に地形の事
一 来迎寺 ○つき鳴の天宝
一 若狭守經盛塚
一 小宰相の局石塔
一 雪見の御所
一 鵯越
一 安徳帝假皇居
一 楠正成塚 ○石碑図
一 宇治川
一 築島の由来 ○狂の島
一 佐比江
一 漆川
一 みかし山
一 菱野村 ○水室のこと
一 天王谷
一 差方塚
一 廣厳寺 ○楠正成ゼンセン
一 再度山太龍寺 ○蛇谷

一神戸村
一河原兄弟塚
一生田大明神
一梶原井
一北野天神
一布引の滝 ○日寺
一小野坂 ○日崎
一生田里
一摩耶山忉利天上寺
一船寺八幡
一花熊城跡
一生田森
一籠梅 ○敷蘆萩
一蛸ケ口印石
一生田川 日山 池 海 浦 磯
一砂子山
一駿馬の浦 ○日寺
一同若菜
一求女塚
一弓弦羽嶽

一御影山
一兎原住吉社
一山路塚 日湯
一摩耶屋里 日洋 沖 浦 海
一湯元の薬師 日松
一阿保親王御廟
一御前神 日廣

追加

一廣田社
一鵜島林寺
一御影森 ○羅松原
一瀬田浦 ○五百貫
一本原稲荷 ○ハ[illegible]
一夜鳥塚
一打出村 ○金津山
一宿河原
一西のくや
一武庫山 六甲山
一感應寺

一角の松原
一鳴尾浜　里
一小松原
一琴浦明神
一雛鶴の里
一大物の浦
一長洲村
一津戸村
一おうしまや
一武庫川
一猪名川
一昆陽
一浦の物語
一神崎

藤森淳　氏遺愛之記

兵庫名所記卷之上

一　福原都の事

抑摂津の國兵庫郡福原荘兵庫ハ應保年中に築港成就して後平相國清盛入道浮海の海法らーて試訴の勅を賜はり院ふかく感じ給ひ兵庫の港を開き六月二日人王八十一代安徳天皇今年三歳一院と一宮ハ殿どもしめ給ひ大内ハ下月御ゆき幸家ハ皆改入乃と物一門の人ゝ外百姓人民ゝ山嶽の宗平安津ゝうゝ試後東に移ゆきの人池大納言教盛乃山荘屋敷と成（蓮西村ホ古跡あり）同九日新都ゝ移

ゐべきとて上郷かハ徳大寺の右大臣実定公土佐国
宰相中将通親奏ゐ申あせうゑん外潮かゝりく
の夜矢をたゝく和田乃れ和田ゐ西れ出ごとん外潮九
郎乃ゆゑ刺ゐ入ゐ海ゐ一条ゐ入ゐ家こハゐ
てゝ下れゆゑ公はまらく変ゐ事ゐ
変の改年ゐ月ゐ改ゐて又変改ゐて同しき
ゐ月十一月廿一日四郎ゐ還幸ゐ改ゐ入ゐ
ゐ地ゐ志ゐ〻く行ゐ
○福原新都地形の事源平盛衰記ゐ云ハ神武
天皇ゐ生国廣田西乃天宮ゐ遷ゐ奉ゐ出代の
志ゐ〻ゐ義の松原海辺ゐ新ゐ代ゐ〻ゐ恵縁ゐ

ゐ井ゐ晒ゐ布ゐ〻の潮乃白玉ゐ間ゐつゝゐ後ゐ顧き
ハ雲ゐ乃ゐ乃ゐ乃

きうのゞく元の書海と云て同三月十日
の波民社成良を乗りうして藤ゝに又南風おうしく
急白浪とゝうさ又鳴と鳴うしみさり波又成能の国
故小路の博士阿倍の泰氏と云く同名の天文地理の
秘術をふくまゝ考ゆけるハ氏通例の一人あり
かゝる人相と入く藤しの名ひ成能とへさゝこ見に
係く面白き面のかゝに関と寸へ縁来の旅人をかゝめ
掛へしにゝ歌詠あり家よ年おゝ乃家童に乗る光
童いとゝこのゝとゆゝも係人の歌と表く我一人に
に入と命に書んと藤白馬に白鞍おさ寄海岡ふ
いりしこうや長く又数のつゝ一切絶と寄写一服分て

海底と入一諸よ龍神納受色とりあやくと海浜ふ
あく此沼成能して付来の紀乃路ゝ公家の童来代
の規模しゝ名りう係く絶乃橋ともを名付さり又藤寄
奥五の寺 兼安三癸巳年とも云の事

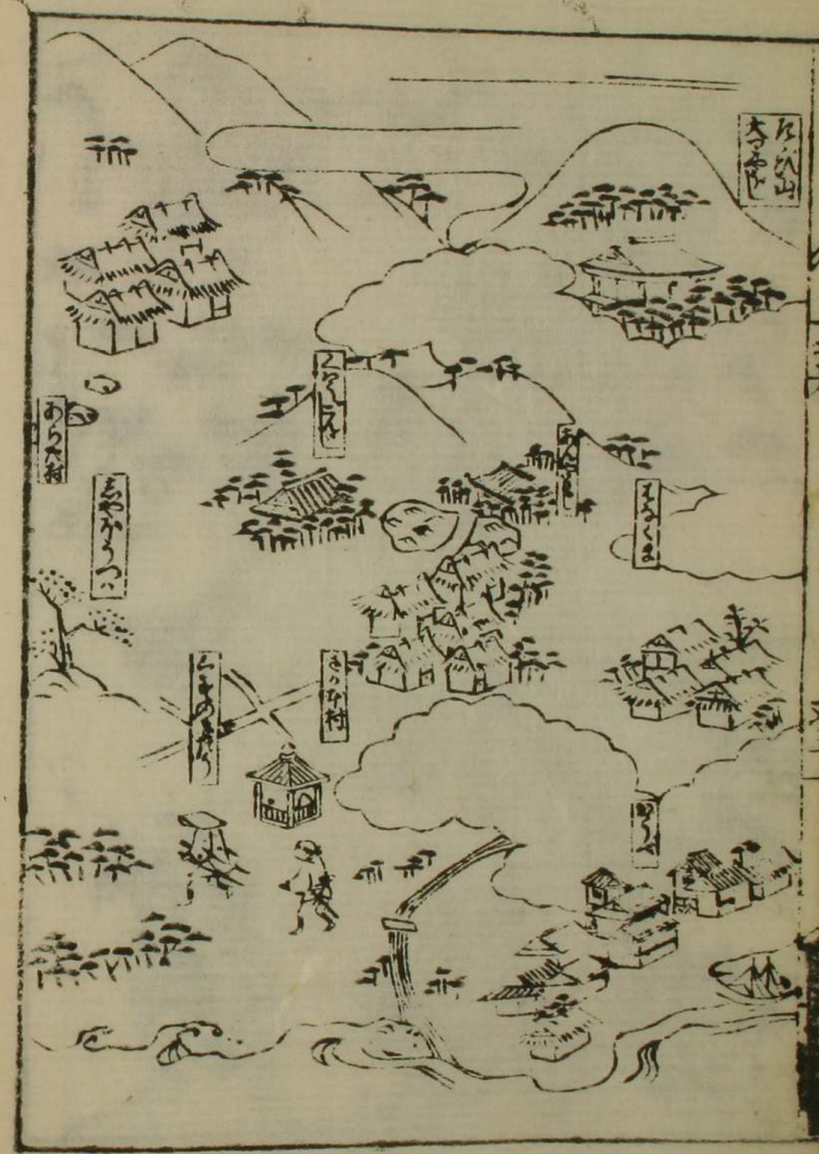
一 藤白寺 今兵庫町家の間東海ゝ云に
浄土西山流紀寄山末逆ゝと号も平清盛公第剣
あり應保元〇七月十三日橋供養あり 経蔵八七堂伽
藍の名場あり一と建武の法破却すゝこ中絶

一 ゆ堂阿弥陀 あゝんの仏 一観音堂 和田岬海底ゝの
ゆゝの仏

○霊蹟

一人相の地 第 松王丸ゝの本ゝ 一清盛墓の法 第 平成元年九月ゝの絵

一縫乃教か　髪結髪弥髪すい　一毎財天像　弘法大師作
一梅の実と仏壇彫刻の像　はか什物
一經乃塔　薬師如来　遠武の法服屋
義勝院　不動尊　武
一徒然　兵庫小濱　西
後藤　
一若狭屋平兵衛塚　右さひへのつゝき
勇永　中一の谷合戦場　目形
一濱川　兵庫小の出口より一丁余街道の川
丁戦　
大木　濱川より上流弁慶出る迄風景



一小宰相の局の墓　漆川の上鳥取村に成る間にあり
はせがわ　とりとり　なる　あいだ
山城の国の三位通盛の寵愛の妻なり平家の落人なり
通盛卿の若き妻なり　平家の落人なり
通盛卿の若き妻なり　平家の落人なり
通盛卿の若き妻なり　

○氷室を掘て作る人菊水酒乃上給よ
ひとり樹のこしは不敏室の松えてくいべしもを焼つるのび
らっかびあ春のひむろハ古紀澤ゆり

〜清けの社に大宮ゆきかよ氷室公を給せうけ
〜いふ〜の清けの社は稲を祭りや氷室氏もめ天稲久ん 中務卿子

日本紀日仁徳天皇の御宮の御宮ゆう氷室あり
に鶴しの八附皇子ゆう鶴岡中 光皇子 閑鶴池
仁賢 稲荷 大山主とたく 同りのよ光い氷室人と皇子の
のいりくふとおさひろ事一いりん又俗のみうりらも稲荷の
いりくふとを掘くお丈余よ夏とりくこのうへにおが
蔵く 敷 茅 秋とおきこりりをいくを上よおさすで

小夏月を繕く 清 とを 板 よすあらち 撫 春にあ
しりく 渦 みひて 冬 月 皇 ゆ とりを 掘
春ゆを 日 佐 よ 天皇 ゆ こひあひ を ゆう 谷
春の冬にひて りて ゆ び 氷 を 絶 ゆ 春 び ゆ ち
にひりて 氷 を ひ ゆ を 毛 ゆ り 御 室 と ゆ し ゆ 波
ゆ り

山家集

夫木

〜春 を 御 と 敷 ゆ に て く を 春 ゆ り 春 を か く 小 ゆ ん 西行
〜食 て ハ 忌 く 俺 ら ん ゆ 玉 の 夢 野 の 春 武 ゆ ゆ 春 に ゆ く 長明

又日本紀云仁徳天皇秋七月八田乃皇女と云る妻ゆ
ゆ 海 ゆ く 遊 墨 ゆ ひ く き 毎 春 に げ 秋 ゆ り 春 の 春 ゆ 西
この春ゆ春ゆにして ゆ ゆ れ く 御 ゆ ゆ を 月 御 に 春 く

麻ばかりなるさこんぼう天皇后より被せ給へる御のゆへらと、数
ちの奇しきこんぼうしはいとく猪ゐんの縣乃作仰詞直
を献ぜ天皇掘まを召て問せ給へ牡麻ありけり奏さ
りけれ麻ごとし兎角如麻ありしと十次天皇之御
さ嘗しちうりとしこれ麻のいとく后よりてせあひ勝の法
ものりしひ法麻の色を中ゆく蘇にて大なる根ぬて
仮仰詞と安藤れ忠淳国へ流しものへ
又猪語より背一人あり此法げ世に廣りぬ薬の始ぐ
にさけがらさりれ薬の間ふ男麻としがりきが牝麻より
云このひ我背に霜のちるとく墓ぞしてん兵きと
いひんば女おうれいりあり絶く恨ぬ分りへぐに

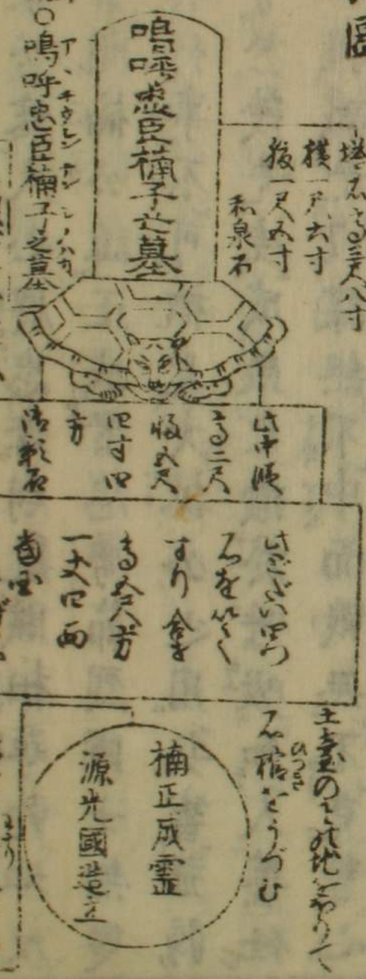
ぬきく皮をちき地よまうをんと云く麻いおきて汐
ちり不思議よりひ改ちり思へつけてこれば乳五もる
猪人へ此ちうを射こんりし皮をちく地寸をぐしける
こぞそよりつげ程と義の野といへ
○又淡路の玉野高に西の麻の事桜法国土記に曰
一鵜城　兵庫より西へ小西美北より南二丁坂口あり
播磨の玉三木宮山へ西ふ一の岩穴掘ぐ峯乃半腹
ふりを南みゆしこさ山ゆ所ふりへ西ふ越こと伯
ぎ乃せごんまりさく大なるのちひとのをことかてしゆへる
ひよるこへのちんゆを弁巻力石義経乃窟椎ぐく
いへ所ゆを武永合戦紀光寺平教経陣石

一天王谷　兵庫より半里程北有馬温泉より
いさらゐたより谷は久年頭天王の宮あり是祭祇
園の社神素盞烏尊なりそなりより湯の山へ
六里なり山なり

一安徳天皇御皇居
兵庫より八丁北、福原新都の遺跡の内
大納言平の宗盛の山荘乃所
一差方塚　墓田村北東畑の中に塚、高九尺
治承四年六月九日福原新都の遺跡大納言國
綱卿治うけたまはりて此塚を築そより泥塔婆
墨内裏を造らるるとなり

一橘河内判官橘正成塔
兵庫より北東、坂本村のお畠の中住吉ニハ
塚中橘氏の二本河内の印しが元禄四の春水戸
黄門光圀公古墳とさいとうあらそて碑石を建る八

其圖



忠孝著乎天下日月麗乎天天地無日月則
晦蒙否塞人心廢忠孝則亂賊相尋乾坤反
覆余聞楠公諱正成者忠勇節烈國士無雙
蒐其行事不可概見大抵公之用兵審强弱
之勢於幾先凌成敗之機於呼吸知人善任
體士推誠是以謀無不中而戰無不克誓心
天地金石不渝不爲利回不爲害怵故能興
復王室還於舊都諺云前門拒狼後門進虎
廟謨不藏元兇接踵構殺國儲傾移鍾虡功
垂成而震主策雖善而弗庸自古未有元帥
妬前庸臣專斷而大將能立功於外者卒之
以身許國之死靡佗觀其臨終訓子從容就
義託孤寄命言不及私自非精忠貫日能如
是整而暇乎父子兄弟世篤忠貞節孝萃於
一門盛矣哉至今王公大人以及里巷之士
交口而誦說之不衰其必有大過人者惜乎
載筆者無所考信不能發揚其盛美大德耳
右故河攝泉三州守贈正三位近衛中將
楠公贊明微士舜水朱之瑜字魯璵之所
撰勒代碑文以垂不朽

右碑文十行跋文二行都合字數三百三十字也

日雨露の覆ハ尼菩三間四方也

一　菩提所　坂本村西こうざまにあるあと

醍醐の廣嚴寺勝縁寺と号し後だいご天皇位勅願

開山媚惠僧都和尚の弟刹なり其沙門寺堂を福徳殿と

称し正成の新像あり　ひと一代既り

○正成戦死建武三年丙子五月念五日

○開山明極禅師日九月念七日と南朝の年連板

又書也

楠正成同身正季はもの廣嚴寺にかいく一家十六誇勝

七十三人自害と云正成四十三歳

○廣嚴寺小東又大乘山安養寺と中て貞享の中

菊敬法師自沙廣寺小東抗寺と

一宮治川　長庚分八丁小御所の小川はあと西り

宮治堤村西三町ばかり　中文村と小西あり

一再度山大師堂　長庚分小なから高野の高山と

坂口宮治堤村と尼分山中五丁半

△本尊地蔵菩薩　はかり伝記あると

称曰山と称し尼山と称し称徳帝の治宮神護寺と二

年亜相和氣清麿勅願所と基偽正一刀三

礼の地蔵菩薩を自ら彫刻し開創し給ふ

又延暦年中に弘法大師はと山と来り給ふ像と永法の

幸と称し入庵し法に入る大よう新寺ニ成る
然あつて大同年中ふたゝび光山あらはし再度ゝ
中ゝ迄大比丘尼寺中興の開祖とあり毎年三月十八日
佛會なりとく法人縁ゆえ
○観音堂ニ安置私判文流清度五部見事彫刻の面へ
ゑく新の墨しるす所なり
一蛇谷　日山間よりあり
弘法大師入庵の時流れ出る水と清広西凡そ峡ふ
とゝ人ゝ入ゝ時毋大蛇出現して毛もとゝ清泥
すむ事ゆゑ絶て庵に入ゝ新の祈りなく酒上
又ゝ山浦よりおのゝ大蛇ゝ出ゝ毛ゝ多数

世大蛇の異聞ありしゝ光山ゝ弘法大師又ゝ蛇ゝ現ずよ
つゝ山ゝを蛇谷と云
一神戸村　字治川のつゝ紀伊国の村ゝ本紀ゝ誤記
ニ河ゝ西の口と走水流ゝ二つゝ一つゝ清水ゝ神戸ゝ
ニ平ゝつゝ山部ゝ西ゝ清水の国ゝ風ふみゝ
○和名類聚ニ神戸村ゝ見あり
菅神功皇后ニ韓退治の時新羅ゝ
敵の首ゝ実ゝ神戸村ゝ故郷村ゝ
一花熊塚　うゝべ村のゝ上乃一村なり
山城の事ゝ新羅十丁ゝ織田信長公のゝ
ゝ矢田部新花熊城ゝ築く基本指揮する村童に

[illegible]海の郡野口与一兵衛[illegible]て一ヶ月[illegible]間
に[illegible]に進[illegible]いつの[illegible]の方[illegible]小の口[illegible]も二方[illegible]
[illegible]は西口[illegible]元[illegible]中[illegible]志摩守[illegible]村正[illegible]を[illegible]り
天正三[illegible]吾城し志摩守[illegible]細[illegible]て[illegible]列先[illegible]へ
加[illegible][illegible][illegible]与一兵衛一ヶ年[illegible]吾城に[illegible]に大坂門
[illegible]城の[illegible]に[illegible]西[illegible][illegible]兵[illegible]と[illegible]送[illegible][illegible]長
公[illegible]
[illegible]く[illegible]口[illegible]討[illegible]り[illegible]に[illegible]合[illegible]く[illegible]軍
[illegible]の[illegible]城[illegible]列の一[illegible]雑賀[illegible]孫一[illegible]
[illegible]の[illegible]城[illegible]田[illegible][illegible]入[illegible]勝入
[illegible][illegible][illegible]合[illegible]り終[illegible]天正八庚辰[illegible]七月二[illegible]
[illegible]郭の[illegible]古[illegible]也

一河原兄弟城　神戸村から三丁半西の東に
城[illegible]松二郎[illegible]源[illegible]義[illegible]の
[illegible]人河原[illegible][illegible]同[illegible]
[illegible]先陣[illegible]く逆[illegible]義本[illegible]との[illegible]越[illegible][illegible]に
[illegible]の[illegible]人[illegible][illegible]光[illegible][illegible]
討[illegible]り義死の[illegible]に[illegible]源[illegible]に及[illegible]
[illegible][illegible][illegible]蔵[illegible]に[illegible]
[illegible]城あり[illegible]城[illegible]

一生田森　神戸村から八丁半衝[illegible]
[illegible]
夫木　[illegible]生田の杜の秋の初風　僧都清胤
[illegible]生田の杜風を秋のなかりやこれ[illegible]　俊成

我が永源寺合戦の始末を一の谷乃城に逃げ籠りて
文明年新中納云年 [illegible] 盛年三位年重衡は和泉の山
乃禁の南海を通まで逆戦本を曳姫榊と云れるう
ちに西南一の谷攻落城の姫榊すれ此里うるを
城内さりしとうや

一同大明神　　もとの同文居也　　祢宜後祢氏

祭神一座　　稚日女尊　　桜社元ハ小田座

天照太神御妹ましく御秘

日本紀　稚日女尊坐于斎服殿而織神之御衣也
神功皇后紀ニ云伐新羅之明年二月稚日女尊誨之云
吾欲居沼田長峡國因以海上五十狭茅令祭之云

御位貞観九年十二月十六日従二位
毎年八月十六日祭礼なり 榊系の庄村氏氏子なり

一 榊梅　　右社内くあり

一の若命戦乃と記榊系父子二度のけ乃時姫女孫を系
季の梅もの枝とあびくしたし 海ろと山ハよさし 重しこと
ヤリ 作内

玉葉 嶋稔こいつら生田の郭乃ハ術をこひ 東の下 東漢人
一 榊系井　　同社内より

右戦地の三見榊系年三系結び井の名を結びて武
運と生田の神さよ祈るよ乃くまづく

一 敦盛萩　　同境内より萩也

太夫平敦盛出而の萩と菊と紅葉と俗説へ也
又敦盛の遺ゐ有りしく都山新造まか又ひわりんとて一の谷
へ為〇有りしく幻変よ出而にく對面ひ一去じ法てハ
古流ひ也しとハ萩だうりみ

一城ヶ口下の石　生田の森ゑ三四丁ゑ西れ上村
あり観音寺ゑ二度のうけ出而ゑのうれ
一小丹波天神　日蔵さ山ゑ村よゑ
法華〇中ゑ寺ゑ大鳥云ゑ観音堂ゑ出ゑ和田乃み
さ沢ゑり法燈あるうりしゑ伝也

一生田川　森ゑ東ゑ乃の川より
小ゑ南へ流出ゑる川ゑて布引の滝乃ゑれ〇生田の沈も

山ゑ〇ゑ〇ゑ〇

滝二流めして流るる故に六条海道をこうらとの南北さう
地くこんへくうつこと
十載
みろ地きのこの白をとくるに雅こんの南川の滝 六条六百
柳古キン
くろくれて流し女の為衣をし井さうに南川の滝 有家
文六木
南川の滝の白糸を人の絶さを人の山路をうめる 定家
平治物語に小松の内府此滝へ清く流れ給ふ故おのの宮の姫
人雅波の御祈傷重き命にうつく滝童龍と成て
南川をうつて手のをう
滝のおりて滝殿をもとりて南川の滝
たとの者と称をなるたうう歌を人の約束の他
西源をうつ記れ新像を

一 砂子山 鬼原新熊田村の上滝乃ぬうう
夫木 岩の原より砂子山のあるこのかりてこれに南川滝 ほ九条内大臣
一 小野坂・同傍 生田川の東小坂を流八川すこ
坂百
夫木 藤人の原の南方小つひの八生田の小松の葉又多り 時捕
同ねも雅あるそうけの玉川生田乃小松こいつ山八 紀年
○又生田の川の葉毎日正月に 同程献ぜ今生田村のぐこ
中尾村今なをこく
一 敷島浦 狩演村岩戸村この名演を云演乃
小ゆも同小のこ 三大女日 月宮女八 上巻
演千載
よのそこふこあ九れ浦のこのよ人やさいうこに神の西八 時光
彩ジタ古ケ
新ちう里に当る人も同ひてこあ九れ新よ海乃波乃 宗系

天木 波く西 西の天蓋のあるこれなり 兼宗

一 生田里

天木 輪蓋 大くれたるこれなり 俊成

同 [illegible]

一 摩耶山 [illegible]

長屋 [illegible] 稲 [illegible] 禁 [illegible] 九二里坂の口上 [illegible]

仁王門 [illegible] 七曲 [illegible] 七限 [illegible] 二百十壇

▲本堂 南向 十一面観音 ▲夫人堂 ▲西方塔

[illegible] 法 [illegible]

抑当山は天武天皇の御宇世天竺法乃仙人の建創する

所なり観世音八十三寸の真像光明天竺仏舎

利壁におひく尊像極楽と仏く釈尊四十二の法門光明

[illegible] 十一面観音像 [illegible] 法乃光を [illegible]

[illegible] 大悲の [illegible] 彫刻して [illegible] 納め今

[illegible] 夫人の像 [illegible] 弘法

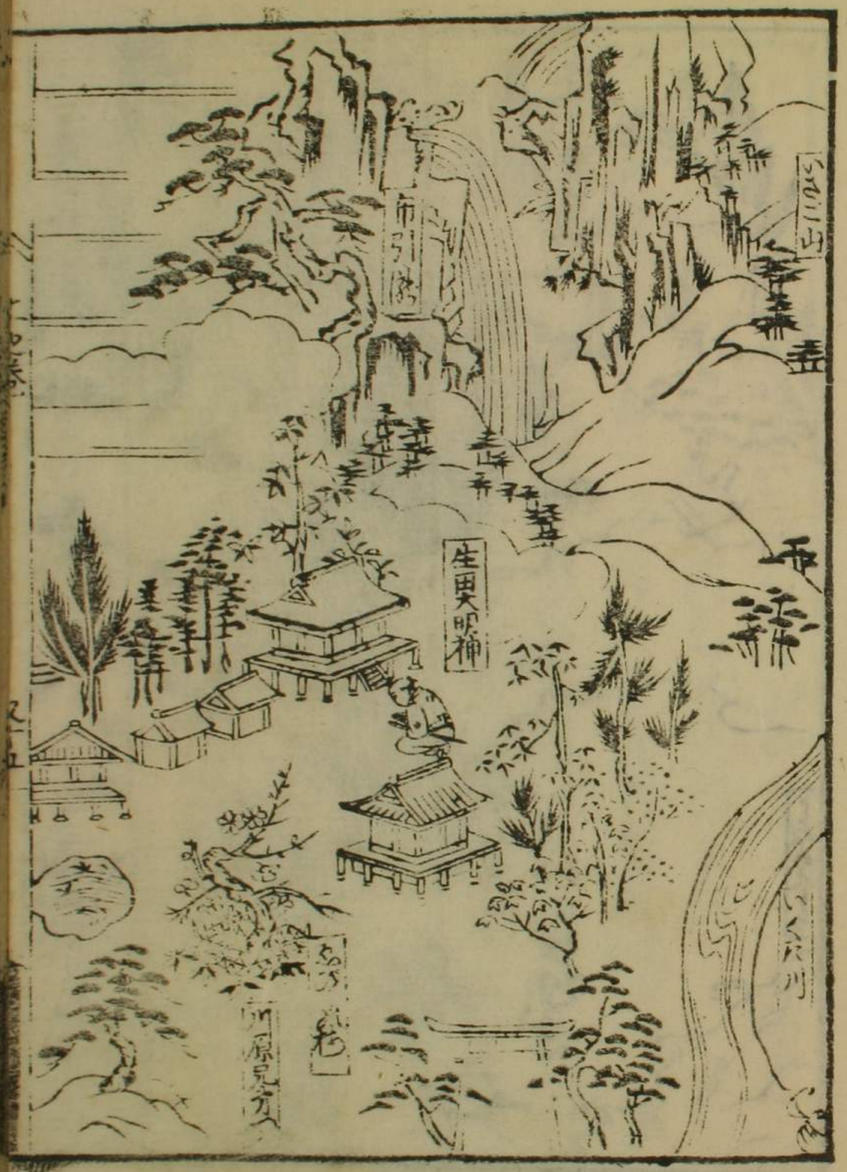
[illegible] 天上寺と号す 頌弘法

○夫人堂 [illegible] 紀女人 [illegible] 熱

[illegible] 帝王と [illegible] 人一軀 [illegible] 夫

人の [illegible] 二軀一刀三礼して彫刻 [illegible] 梁の

帝 [illegible] 弘法大師八歳 [illegible] 紀



是ハ世ハく者ふるよりあり
往者ハ六ヵ所ありて西流湯殿三百字ハ今ハ二ツ四来の湯
おかちこすぎ清ぎ城くぶ桜列者の名剣ハ里数十里
小松原ハ長柄橋を渡り今場合僅なり寺領ハ
一本光院　一観正院　一王義院
一蓮華院　一大楽院　一明王院
菩門院　慈眼院
元弘年中ハ戸部の城ハ赤松入道心義城乃西ハ山迫
しく嶽石塚くらべて今ハ名ばかり石塔ばかり
一求女塚　又奥女性書　乙女塚
おとろ塚ハ女の泣ちうるひし乙女とハ

[illegible]

[illegible]

一ツハ 生田川東 赤池村あり

一ツハ 遠田村あり 一ツハ 佐吉川 [illegible] 田村あり 名十丁ヨリ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

豊田の川よりひくぐまをあらそひて女の親はなく山川は海をかたらひあるうんをさへなんと云男どもはとよはのそてをうらひとらるる者のひろうをあらそつて射つ今ひとりハ尾のをあらそ射る

伊勢物語に我身をなんはの浦の海人の子なれハ名をたつ山川へ分とりけるハ二人の男をつゝきて同しく西へ分とりけ累れハんの親はいとしく熱きて取ひけるとりぬ男はおやをうらみ女の婿乃をうらに婿を給をうらはをうらはの世は男の親乃をうらに同をうらに同をうらに婿をせよ此の世乃人はいかゝ世あのをうをあらそ婿をうら

和歌の親はをうらをうらはゆくをうをうをう

[illegible]山[illegible]より[illegible]号[illegible]ゆう今[illegible]繁[illegible]も称も源義経西国
下向の砌山伏に[illegible]雅風に遇[illegible]人[illegible]時毎年[illegible]を[illegible]
のり所[illegible]又あるいは[illegible]山嶽りゆづりんげ嶽あり

一 [illegible]の嶽　薩摩原　竜原信吉村の南西渡
[illegible]に新村の[illegible]源[illegible]不[illegible]原[illegible]とすぐ[illegible]原[illegible]と[illegible]
原のうらに[illegible]

○[illegible]新山[illegible]山[illegible]徳[illegible]
[illegible]　基信

一 [illegible]山の[illegible]
[illegible]山の麓[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

社こゝより新の号にかへ〳〵老来住吉と称せ要し
ゆゑ此所の大神をうつしたんん
○硯石　神おろしの所
○うしての松　る場の並木の内なり
○立石傍　方角つまび〳〵なるべしとゝ一説老京
新熟傍と云ふより川の末なるよ一村あり
意神てゝもの住宅ゆゑおもてゝ石鉢の松を造
らしめ給ふ武蔵の漆三蔵の浦と云ふ小入あり
夜よ集へるをんなくめ百傍乃号ありとゝや
一　渋田浦　大石村今芦屋の石渡と云ふ
夫木　渋田の浦の海人の網乃浦すゝろ　国信

月
芦の屋の海士の塩焼煙立ちのぼる網山橋沿ひ〳〵ちらすゝ　光明院
一　山路峠　汁町より西方の山の方田の中に沿ひて
此所松江流判官義立命則実弟城乃ホ
○月湯　亀京新行者　北寄　墨ホ　横屋　奥海
西寄木　田中　此村と山路の麓と云ふ海ちく
湯と渡く湯とも　河原祭頼乃行事ハ出ず
摂津名所伝ふる村二月中に松ようのかり
伝りけるふ津の宮山海と云ふ奥摂内名所
渋河あるて伝りて守こゝろけ
渋河あるて伝りて守こゝろけ
対九　みつのすゝ新のむを咲ゆ　平忠盛
一　中尻稲荷社　表村より祭むり　此神幣沢江村

の海をこぎれば海の藻に入りかくる樹民
あまをとめとみせうれ節を折りて民おのく
榊とりつゝ神とむく春村と社と建て所の
所平氏神よりあり柴毎月四月の日神祭あり

○同曙松　ふるえん村あとづきにも

菅氏所よりて義村の稲荷の神幸祭をふえなぐり
をりよりり　御神といさ為めりる不ゝ云

一葦屋里　ふるの山ぎしの村へあやり川あり

同ゝ芦やの里の晴ゝ歌のつけまむ方は月はなれ　武者所
みのくらけまむ方ゝ芦やの里に荒れ　定家
ゝ古　ゝ川もかく流ゝ和ゝ芦やの里は秋の名歌　家隆

○業平知行伝説古迹　はせ屋の里は業平の領地
ゝ晴ゝ歌は業平ゝも名ゝ川ゝの景ゝも歌ゝの海ゝ乃焼ゝ　業平
○菊菜屋敷　古迹村の中に昔あり今は里に入る
西は七百余町の領地菊屋の家は所ゝ一ゝ月
ゝを伯父菊菜ゝ稲中ゝ為ゝて右馬乃ゝ中ゝと為ゝ
に業平ゝ菊菜ゝ落ゝ上ゝて遠ゝ流ゝ墨ゝ樽ゝ国ゝ
ゝ孤稚の者ゝ伯ゝ最明寺入道時頼公流ゝ
ゝく貪福ゝ入ゝ乃ゝ残後をいうゝ心ゝに行ゝ月
ゝ所ゝ菊ゝ入ゝ菊菜ゝ乳母ゝ

○猿丸太夫 系 公光回廊 はあと村の間かに古迹
のこりて侍ると沖洋 猿丸太夫の石塔八川の東西
一 鶴塚 芦屋川東の方にあり
通清流の源 二位殿改矢あく射給ふ
紀氏の猟場 入くあ浦よりあげ山芦屋の浦小
みづまとりあく名海浦人をさそく老よ望む
一 湯元の茶所 同東二条村の名にあ施無ふし
毒水温泉 馬の温泉 熱地極秋の神力ふく南
海分山芦屋の浦より引 毒水 温泉
山の滝坊月次不絶して世俗
蓋破壊して今再興とぞ

兎原住吉社
ゆう村
ゆう村
ゆう村

貴二皇子ヲ三韓深正尹賜一ホ河深親王仁和三ノ年東
海ノ海浜ノ人ヲ配流ノ時此廟ヲ遷ラレシヨリ所出村
ノ間ヲ則河深山親王ヲ祭ルトテ寺ナリ

○建武年中蜀山河深ノ波ヲ出ル山ヲ越ル知ノ陸奥
一宿河原　西ヘ五十余町ヨリ有ル所ノ薦僧
有リ九州ノ志佛ヒトリ河深ノ下ニ新宮久
ノ庄村ヲ日新ノ山ヲ出テ南ノ方ヒ流ル所ノ名ヲ流ル
一御前沖　西ヘノ海浜蛭児ノ流ルモ云ヒトコロハ
神功皇后三韓ヨリ帰ル御ノ時ノ御船ヲ繋ギ給フ
ノ所ヲ此ノ海浜ノ小屋廣田ノ郷ノ
れ母ノ人ヲ今廣田ノ社則ち此ノ母

こと海を渡り神おの神、おきつ人乃渡しゃう、又是ハ住吉
住の兵庫ハ住吉ハ比と比と住吉ハ去よりの月く住吉て
武庫郡と号し神功皇后紀ニ云ふ
主義
ちはやくしおきつ人の沖と乃ん渡せ船こ井渡りつ人の渡ハ
天平
はるさきりく出水渡のかりみれハ白ゆき綾成
一西天　摂州武庫郡ハ西ハ山城国ハ
しハ天ハ西のこと
祭神一座　○蛭子神　○事代主神　右
右殿神二座　○大己貴命　○事八十神　右
日本紀云伊弉諾伊弉冊尊為夫婦生蛭児
生三の御子天照大神の御子己よ三柱みこと生給ふ

御子ざるにより天照大神の御樟船に乗せ奉り流し
棄ル ハ住吉ハ西ハ海ハ住吉ハ西ハ海ハ住吉ハ西ハ海

容和の美を恐こゝろのく人機乃乃多和と恥ゆ
の後と成く村民へ戸を閉ゆへ出ず忌籠の祭こゝ
此法泉名戸を閉く社参せず世俗十日恵比須こ
元六月十五日八月十五日の神事
於玉
恵の海の風心せよあれやあらしやあらしや三神
ゆ
○又山ゆそ民こゝあこ為の村新田義貞陣所
○推古天皇九年三月聖徳太子始て奏楽の御を教経
ゆの神ゆ楽く商奏法護の神ゝ今に為びを被神
らて法商人あがらなるこの仕附ゆらこゝまる

名所記追加

一廣田社　男女ゆりひろ村南ゆ道ゆ出ゆ道ゆこ道
ゆり三丁ゆきゆ　二十二社の内廣田八幡天神功皇后乃御事
又女殿の祝ゆ謂
▲一ノ殿八幡　住吉　二殿八幡　三殿廣田
▲四殿南天　五殿八祖
毎年七月七日神宝を出ス　諸人ゆ様ゆ歩又
八月十八日後の神ゆの氏子是を参ス
蒙社をゆの為歌　六条大政大臣
北陵西ゆ
今日ゆぞ八かくく言つゆすゆ男八めぐ見ひろ井神に海ゆちん
一武庫山　凡てむこ郡城ゆ也

夫なり[illegible]ばや[illegible]出て[illegible]迄八[illegible]なり公約
今 姫の宮乃武庫の[illegible]孫より[illegible]ばせ[illegible]より白浪[illegible]
○六甲山 武庫の續きより有馬郡[illegible]村よりいろ[illegible]
庫六甲の山門より當山八仲哀天皇先后大仲姫乃[illegible]
つとう忍熊王てんとう尚ドもひて後神功皇后を惡て兵を
発一三韓さうを待伊と后是を知のひく武門の宿禰をつ[illegible]
軍應をきつて麝坂王及ひ[illegible]人乃族[illegible]を誅して山[illegible]埋其
なぶと首[illegible]ら[illegible]ふく[illegible]山と稱す
○甲山 右山續き武庫六甲乃半腹をてるれ[illegible]ちらこちか
ぞとのしと四方同面よりて面向不背の山也[illegible]乃基備[illegible]こ
[illegible]ちに居く昆陽乃大池を造り[illegible]めの[illegible]其堤をきつて築

[illegible]ふ[illegible]く[illegible]池山とも云
一 鷲林寺 むこの山門よりあり山号八六甲山と云 大
長十年弘法大師開基なる土面観音乃像を安置す是則
大所彫刻の美佛也天正及中信長公放火よりく伽藍よ及
宝物旧記悉く焼失して後今僅よ茅宇を結ひ[illegible]
稼一村人こ[illegible]成[illegible]
一 感應寺 神尾村よあり山号ノ尼山と云始八浦
[illegible]ちこ云開山ハ[illegible]ふよ[illegible]ん観音弘法大師乃作浦鳥
う公医を像乃門よ納ひ旧記畧之
一 角松原 けのこ町より二丁東
五葉天乙女ハ[illegible]焼失ハ[illegible]ふ[illegible]て[illegible]ハ[illegible]ふ[illegible]

一津戸村　右つゞき小一村あり
山田に毋田満仲乃活子びちよれあの所代よ立一家居家
仲満乃二子幸寿丸の首を毋田より持ぼとふして持さうり山
池水ふしあるひ家に埋しより風雷と名付ける松原山昌林
寺恵心僧都乃開基と意義丸石塔あり三月十日八池
丸の魚乃多と云　或八津門と年
一鳴尾磯　海　浦　沖ヲよろ歌色
載とはところ八都の方乃山の端も見え波鳴尾の沖より出る色　実表
一神照文　小まち村今ゆ面
おして海の色を祭祭と云へり
孫乃孔と祭乃り雑波乃海おしてる色とにしろうへ　家拾

一小松崎　弓尾橋き小まち村八御乃より小雑波婚石三ツ
松と代八松　留変　小松　山三ケ所を云
新勅　雑波乃ごう風さ吹汐れ八小松乃傷よ千鳥鳴るり勝明伝作
一民庫川　大河
夫木　津の山にあり山と云家武吉九川流れくるいをいまこくくろ　知家
玉葉　むまの浦と毋り物ほしいさり乃毋海乃乃物拾波乃より毋　俊
一琴浦明神　東野田村
さぬの天皇牙十二乃子　南大臣　従位河原左大臣　を祀ひ奉る山城
の国六条河原乃院よおゆて　塩竈丸浦を撰一名ふ名ぎ山ゆより鶴を
波しめ乃ものとや
松乃牙に浪の洞乃恋に海八かり光のあとふあくこり
仲正

一猪名　逢川とゝく世還ふもしあり山川猛所川なりとも云
摂國名所記那波田川逢とも云ともいへり海波漆冲川山地歌
一雑波里　たゝりゆよ一村あり尼崎より八丁戌亥方
山所よ梅あり　百濱西王仁の歌
古今　なにはがよ咲やこの花冬ごもりいまを春べと咲くやこの花
一堀江　同橋　あまご橋所とゝびきのそとゝくあり堀江乃
しゝとゝ云當西西成郡末津村どちしてゆりへとゝ云いもいへり
仁徳天皇此御宇よ那波より江ゆりしてその後ゝ西のうち廣くし
て田園すゑし　森明よあへ八潮のぼりて苫里乃絶ぬ文の如九郎
ふゆ掘南水をうゝ西海よ入んゝこのゆへて堤を築ゆゝせのゆへの
跡を堀江とゝ云伝

一大物の浦　尼崎の浜を兵庫町の中よあり　定家
山所源の義経西国へ落ゝ給ふ弁慶と仕ふの武蔵坊弁慶
波高山所又建武の比秦乃武文御息所を供奉し玉ふの西姫
（下らんとあひ）ときゝ山所て賊難にあひしゝ
一蒲の初鴻　同漢辰巳よあり
一長洲村　同漢　尼崎より八丁
拾遺　人すまぬ梅の洞八津の西乃ゆ
一神崎　尼崎より北丁天満ゝを一里ゆよあゝ
万葉　神崎のあ波を見渡ゝ浪ゝ立ぬ　ゝ人

所々の物語寶永七の庚寅年まで

一福原の梅　五百余年　一死慈藤塔　四三十年

一はきの浦　五百年余　一摩耶山　千三十年及

一つぼの氷室初り　千三百年　一阿保の人屋　八百年及

一梅正成の死　三百年余　一神功皇后　千五百年余

一月石碑建　二十年余　一明基の所　九百年及

一たび山開き　四百年余

兵庫名所記卷之上終

兵庫名所記卷之下目錄

一福厳寺　○自然居士の井　一福海寺　一真福寺　○さう七川

一二本松　一和田の笠松　一一遍上人塔の真光寺

一びんぢう　一清盛石塔

一八棟寺迹　一渚沙の入江

一月見の浦所　一萱乃御所　櫻御所ともいふ

一兎乃御堂　一薬仙寺　○長谷観音

一千僧寺跡　一灯籠堂

一和田のミさ記　円海入江渡り　一和田明神

一 大和田の浦
一 本間遠矢
一 延喜山
一 白ひの梅
一 源五塚
一 長田大明神 ○月里
一 蓮の池
一 蓋後法寺
一 妙法寺 ○車村矢拾地蔵
一 淀の絶橋
一 兵庫古城
一 内裏屋敷
一 真野の池 往古里海潟
一 通盛塚
一 苅藻川
一 明泉寺
一 西代村 ○七ツ井
一 禅昌寺 ○鷲取山
一 二葉松
一 忠度塚

一 盜人松
一 勝福寺 ○大手村聖天雅現
一 因幡薬師 ○稲葉山
一 礒馴松
一 鏡ヶ池 多井畑
一 腰掛松
一 若木櫻 ○漢作
一 須磨の関屋
一 一の谷 ○ひよどり越 ○鉄拐ヶ峯 ○安徳天皇御遷幸神所 ○巖石落 ○鐘ヶ松 ○坂ヶ
一 飛松
一 月見の丘
一 光源氏古迹
一 行平松
一 綱敷天神
一 須磨寺 天室付
一 うら海の山

一上野　○二の谷　○三の谷　○鉢伏ヶ谷　○日の山
一敦盛塔
一境川
一須磨の浦　○こまつ江　○こまつの川　○蟬次ヶ
一山田の旧跡　二ケ所
一兵庫十景之題
一福原観音札所名目
一兵庫より弘方道法
一須ヶ浦十景之題
一所々年積　上下後丁ニ記ス

兵庫名所記巻之下

一福厳寺　兵庫西の町にあり

巨鰲山福厳大聖禅寺と号す、開山仏智禅師なり、
後醍醐天皇行幸の時、御願の時、正安元年三月
晦日為る小一条皇后の本願、
為境門小自然居士菩提所、
くして渇すれば幸ひ今久遠寺の所門小西
一福海寺　同所南なくびるう
大光山福海興聞禅寺と申す、開山在菴普肯大和尚、
尊釈迦如来造立作、源の氏、祝聞安氏のため
創し給ふ、定文の沢る氏、はくしゅう法の沢氏、

以兵庫の浦小鯛の浦の浦者 [illegible] 則是
御自筆の額 [illegible] 又御[illegible]の
山号寺号あり 往昔仏二十面と伽藍門に [illegible]
中大興 [illegible] 場合 [illegible] 今は [illegible]
[illegible]

観音堂十一面大悲 [illegible] 誠 [illegible] 殺 [illegible]
仏の像 [illegible] 八多門天の [illegible] 弘法大師乃化身
一二本松　右寺より北西四町ばかりの上に
建武の比足利尊氏 [illegible]
一真福寺　兵庫西南の町のうち
當寺八面柏子岐王岐女面基 [illegible] 観世音 [illegible]

の守護仏小像なり 一仏寺より南今石橋と云小川あり
逆瀬川と云用波の [illegible] 畏敬 [illegible] 流兼の [illegible]
[illegible] 川と云あり
一和田の皇松　石川の南ぐ [illegible] 古木八 [illegible]
[illegible] 徳の松なり
歌 [illegible] 枝末まで [illegible]
[illegible] 右 [illegible]
一一遍上人の御廟　同所
西 [illegible] 真光寺 [illegible] 元祖一遍上人の石像 [illegible]
[illegible] 迎 [illegible] 迎 [illegible]
[illegible] 御 [illegible] 庵二 [illegible] 年 [illegible] 月 [illegible]
[illegible] 年 [illegible] 又 [illegible] 八 [illegible] 年 [illegible] 月 [illegible] 四十四代

一通上人と申す通仰冨五年七歳寺にとゞまりて迷化しるハ
元祖上人石塔の右にあり
當山住持有仁明天皇御宇に惠尊法師入唐し一宗
を傳ふ謂ゆる帝大悲乃尊像を賜ふ帰朝の時ふかく入
船をうゝふ順風をふしてゆの入る時船のゆくゑ
惠尊是をみるに大悲有給ふ吳越にとゞまるに
安置ゆ、そんぶつ堂の本尊観音御像乃三像なり
なを尊土の右ふわり時宗元祖上人と中興の御祖師
當寺什物ゆ、つたへ

▲蓮宗自畫の像

▲業雲乃石号　元祖上人ゆゑ代外八畳之

▲人丸自畫像小之定家の讃歌

一現世塚　真光寺の系代と都の法ゆ
但馬守平の経正八海尋永一の合戦敗の時ゆ
うしなゆ又一説ゆ是ハ一ゆ青山乃弾正と謂し石ゆ
遷ふ引てゆ
一清盛石塔　ゆ法ゆ系ゆ平乃ゆ
八角海敷六角ゆ如元年ゆの国二月四ゆ六十四
ゆ乃ゆ墓ゆ遺骨ゆ多宝法眼ゆ福ゆ
ゆ之小わさむ是後石塔ゆ
平の貞時ゆ石塔を建ゆ小弘安九年二月日と堂石ゆ

弘安九年

一八棟寺の迹　右同所にあり　天王の社退轉して今ハなし今の社ハ二年に出来とぞ　一人宮　秋葉かけり

一法華の八合　又次ル　同所ト

一ハ長ハ　あらて行ときハ八合の水流のわ[illegible]流れ[illegible]

一ハ長ハ　えさこ寺の法華の合[illegible]

一宝乃御[illegible]　同所南京の方迹の[illegible]

一会の四[illegible]　又[illegible]の四[illegible]ハ[illegible]

後鳥羽院[illegible]七月十[illegible]日列の流人文学上人[illegible]

一奥の御堂　同所大[illegible]山寺[illegible]福寺[illegible]

寛弘二皇后女院に捧ぐ天正年中に徳川氏名
をとゝめ門前に立遺跡今畧之

一葉仙寺　清水寺より一町南

開基玉山と号す天平二年開山玄賓僧正　天台宗

聖武天皇行基僧正に勅して寺院を建立
安二年の年京都昊山寺に改宗せり

観音は行基菩薩の作則和州長谷寺同所に
なり又高野の南院慧自筆に施厩愚乃絵堂宝物也

一千僧寺の跡　石寺の南今長原の三昧なり
萬年山と行基僧正の開基一千人の僧を供養し
多門なり　亦円光大師さゝぬきに入門し向の元寺院

おいて、法花経一千巻会仏一百万遍ねんを修し、[illegible]
[illegible]帝[illegible]山事 摂津国[illegible]郡名義集[illegible]

一 打出浜　　千僧の南和田の原の内

[illegible]

一 和田の磯　　同海　　同入江　　同港

兵庫南海中庚巳向[illegible]

[illegible]

魚[illegible]次風[illegible]尾乃松おおく生て和田の入江あり[illegible]月新　覚性

一 大和田浦　　和田のきさ[illegible]

[illegible]

一 和田明神　　兵庫南[illegible]

年中に洪水あつく国[illegible]この河辺[illegible]流を

あらせる　毎年六月廿三日祭礼[illegible]国上下の渡船[illegible]社

ひようをおびやかす其験[illegible]

一 兵庫城

天正年中池田信輝[illegible]

正九帝山城を守る中旧郭今よあり

一 本間遠矢　和田ノ湾今三丁のかれ原
建武年中ニ本間氏ハ佐渡ノ守護ト成テ和田ノ湾ノ内ニ矢を射くゝ名をあらしめ
和田の浜ハ昔ハ海ニ成ル
一 門裏屋敷　ふるき系ニ所ゝ名ハ拾丁ヲ西面し
福原新第ハ安徳帝御遷幸の門裏屋敷ニ成ル四丁ヲ方巣地乃
迹あり和田の地名を今水のごとし云
一 延喜山　和田乃系ニ
堤嶋天皇行幸あるゝ流してのまゝ山所王城乃地勢ハ
ひとしきに一つの山なてゝ名ハ巣地のほとり今ハ二丁ヲ三
一 平の平山あり延喜ノ頃ハ山の名とぞ
一 三昧池　浦海里往還　長サ今十丁余ニ東屈地村迄

五

五町ニ三昧の池ハ東ハ長を草よりぬ長ハ七人の池名を河原きとの　人九
長ハ　踏ハ長て地ハ平ハ成よりまの〻池ハ稲とぶ〻のゝ　サガミ
五町ニ　ときとまゝ独を孤てまの池乃ハ茂を生よきすく　人九
夫木　若ゝため三昧の里人ゝ名ハ見てゝ　隆信
一 白梅
菱ハ花　辻のとき和田のゝ池よ船をとめ屈と結ふ氏なめの
手ゝを花ハ東愛ハ行名ハ
一 通盛塚　長サ十丁ヲ西御所の前池のそ下ニ
松ハ又ハ有一の谷合戦ニ平ハ山乃ゝ大将越前三位ゝ通盛
三十ヲ首ハ入て本村源氏と組討しゝ
一 源氏塚　ゝ中ハ平柳あり

近江の國の人木村源太重章ことちうと書記

一 ふるもり　　右岸の西のくだりの小川橋あり

あいらの重傳　平家物語に云　藤川　苅藻川　こもうら

源氏の池　右手の方に見る所の林を花さかせ　板屋と源氏

と書きたるをさして藤の花の多しとあり

一 長田大明神　ふるもりはぎき右の方屋あり　額道

明の筆なる物　並木八月毎の八月十八日祭礼あり

▲祭神一座　事代主尊　祇社二座　神主大中臣

神宝九穴の貝アリ

神功皇后伐新羅明年二月皇后之船廻於海

中以不能進更還務古武庫水門而トス於是事

代主尊誨之曰　祠吾于御心長田國則以葉山

媛妹長媛令祭ラ

○村上天皇應和三年七月十日於當社雨祈アリ

一 長田星　兼仲

夫木云　ながたのもめぐりはるまあるくに田の里に苗取

一 明泉寺　長田村奥天照山と号大日如来あり

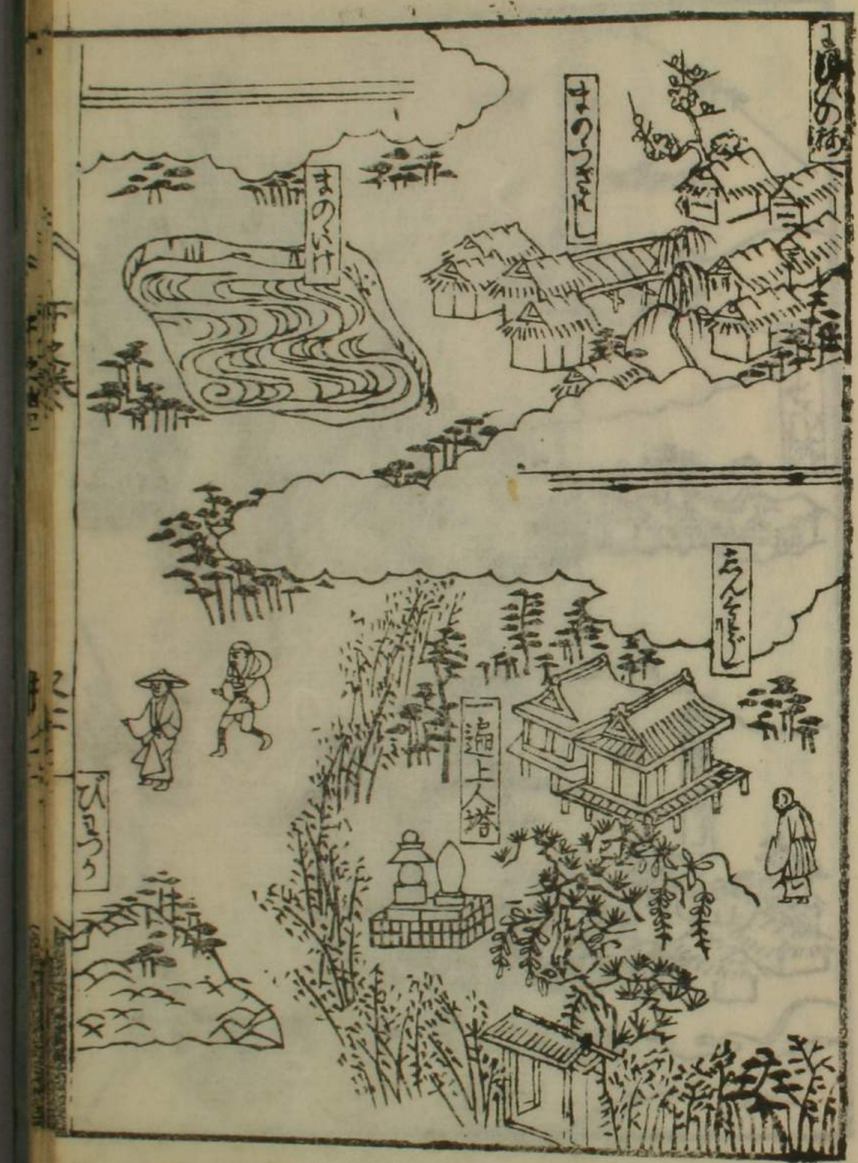
一の谷合戦のとき越中前司盛俊陣ヲ武遠ニ平知章ノ

陣あり

一 蓮の池　かぶも川つづき

此池ハ沙基ハ川天乗寺中ほとり世の農業旱魃の憂

なるらんがためと蓮の一種を池中へ入る人八切徳水と称し



まさの池と号す

一 西代村　四ろくびあり一村あり人ゆくへ西おちいさ
ちゑとり又ほとりに原のうしろ原のもとをゆ
井ノ坊あり

一 盛俊塚　いにしへ西山ゑ四の墓あり

一 禅昌寺　東の方大ねの門ちうのおのとりやしき原氏方
則総と和尚のうる薄ゆく盛俊を対
　　まちの尾上山角

帝釈神拝山と号す岡山月菴宗光大和尚　後光厳院
延文元年御系釈のもとゆる勝地恵教彫刻寄山豊
臣公殿ゆまひちをとゆしまを中上用令上を賜り

和跡を徴興しる虎わ〳〵えい山上の山を祈抜山とゆ又奮れ
山〻影昔神功皇后三韓帰鈴あつて是よいあり石龍あつて
いるのの上をなぞ人よ忽ち思る山とろ〻よろく祈抜山と云月菴和
尚登城山て指くあるとも今も城の勢原く冬れ雪いまり
濃ず晨あのぎ〻く濃姫ととの御母君のまの其後和尚六十
四年こて康永元年己三月廿六三百廻化しのの正續大祖禅師と
燈号あり

一妙法寺　其の花々ぢ子ゆ山ちく
天言ゆさ山ゆ仏蓮のちゆ〻しな堂見ゆつ天大仏しの又ちう
十丁ゆ多成山ゆく〻車村とゆ而ゆ矢抜化義ゆ而あり
一二葉松　石ちゆ又れ　又陳氏ゆ立ちる云

的の枝村のほとりにあり
はるかにまくあり

舞人の的の枝乃松 康れ
一淀絶橋 まれの尼うみ西浦辺にあり

金言 ちらめや淀の絶えしをたれか知る西人をこひて落涙
解 又月毎にとどめつゝ橋えしより深くなる恋のいかなれば

一忠度塚 こまの枝二丁あり

河内国茨田郡の内一谷長塚の目長アハ郡大蛇池に対す
ますはうの会寺に行年 早歌又塚は是より三里余にし
橋乃明石人丸堂のかたとりまあり

一盗人松 右の次郎村にあり むかしハ二本 雨り橋

て今一本大なる山松海岸にあり白浪ちら毎に陸の地
ゲ西人の名残りとゝ ゆえなり 梅松とも云

○ぬす人を白浪とゝ浪漢の張角と云ひむ浪人
を蔡一解ごう白波谷と云ふ所にて居て賊賢地
おゝ一所々りはの人是を白波賊とゝ陸よりくこと
より盗人の異名をゝりかみと云

一飛松 枚方村にあり

菅原桐陰しへ流乃地沈梅梅松の三本を愛しあふ
よ菅丞相しとゝ中勢とゝ梅ハ三ん ぐはくしふ
梅ハ枯て松のみ残れなさよとゝ沈松山ゆまく花
ちさりしさゝ沈船を和田乃仲より陸めのなゝ又松も

うま矢ぬ俗四方を打ー尺一寸の松を極く石を乃ホ
乃こゝ也り
一勝福寺　　西代村今又下り大乃の上文居ゝ
厚と美花沢の社こゝ也るおく大ゝ村ノ上よりあり桂尾
山と乃ス一条の人御勅願所おゝ也る聖ゝ人ゝ春日の作開
さん地ゝ上人ゝ云ゝ也美ゝ宝あゝ寺ホる牧渓思
恭美ゝ乃ゝ三尊ゝ仏師ホの筆おのゝく佛法ゝ弘法大師
所持の傷杖又ゝ厚つゝ仏像ゝ時ノ陽十ゝ尊
佛ゝ尊ゝ乃ゝ昔八坊ゝ者ゝ有ゝしゝ今僅ゝ
宝光院　遍照院
象法坊　保本坊　東林坊

一月見の松　　長原より一里半東次広村ノ上山の中腹ニ
松十ゝ余あり行事中納言月見の山ゝ
○風流業師　　○猛業山　　皆東次広ノ
一ひゝ原源氏ノ古迹　　ひゝ原ゝ
仁明天皇ノ代ゝ光源氏の君次広明石の景色よまし給
爰ホ斬くゝ長秋を送りゝ乃ゝ乃ゝ
一磯馴松　　東次広ノ海ゝ
行平ゝ在ゝ山海ゝ乃ゝ辺ゝ人三ゝ勢ゝして磯浦ノ人名
を慕ゝ松ゝ乃ゝ名ゝ弟ゝ乃方ゝ
後撰　次広ノ海ゝ乃ゝ立ゝ
一行平配所の松　　ゝ乃ゝ

中納言あつらの行平行和幸中嵩潟ゑ配流ありしこ沢
地たきゆ(ゆ)ま(ま)ゆ(ゆ)ま(ま)ゆ(ゆ)ま(ま)

一御磨寺　兵庫より一里半余西のいどう上ゝ
上野山福祥寺と号ず家宝観音ゝ開山聞法上人
杖頭ゝ生ずと伝ハむかし天長の治和田の岬乃海底に毎夜
光明かゝ射くして碧天を照す法人恐怪を延て漁人
あ[illegible]なおそれ異ゝ思ひ一つの檀木観音の尊像を
ゆゑ小宇に安置ス其尊像ハ聞法上人の刻延ゝ
遂ゝ光孝天皇仁和二年ゝ開法上人ゝ勅して浪ゝ
の御上[illegible]ゝ山ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

高松
枝ハ

▲若木桜制札　武蔵坊弁慶

源氏の桜　此義経の南面不審一枝折盗輩者
任天永紅葉し例伐一枝者可勢一清

寿永三年二月日

今坊谷十二宇

一孫寿院　一大聖院　一慈眼院　一東林院
一蓮生院　一不動院　一華厳院　一西光院
一梅本坊　一秋葉坊　一安楽坊　一東義坊

漢竹流水より普神功皇后新羅征伐のごとき和さる國
松浦川なく鮎を釣なる竿をとゝ水よ拾う負ハ寸坊名

嶺とく哀ふかき山根さうへ今をを根ばかりえびこれり

一若木桜　須磨寺のあるあと

むかし源氏の君すまの浦波風ふかく桜一本ありと源氏の君よしてうゑ給ひしとかやいまはさらにのこりなくなりぬ

定家卿

桜さく浦あるの世のあるかぎり花ぞ春のあるかぎり

千載　詞書に春の中新古今

一後の山　日上乃山なり

天木　月出の山なり

千音　三つの人のおもひよりとかの山の麓ようる浦風

○須磨寺の風景

湯ノ沢ヨリ出ル一ノ谷有り戦場ノ北ノ方ニ新潟ノ
ヨリ一里半余坂湯堰ヨリ出ル谷の十里余海ヲ隔テ
鶴越ノ山ヲ峠ヲ越ル嶮しき峠ヲ越ル新潟ヲ南海紀ノ
西海道和泉ノ浦ヲ新潟ヲ北ノ海ニ出て漁海服あ
り遠ク見ル九州ノ方ヲ遠ク海ヲ見ル人ノ松ノ
平ノ邸ヲ西ヲ顧ル時ハ後鳥羽ノ御所ヲ清水ノ松ヲ清水
ノ方ヲ遠ク見ル東ノ方ハ青ク かすめる色ノ去ごとしと
あくまで開くる東の橋浦ヲ遠ク松風樹梢の古ヲ
一本ノ桜も咲ヲ梅ノ花ノ香し

一湯ノ沢の実景　次まるる湯堰立家ノ西ノ方ヲ松ノ
あれ　ヲ見ル通ノ人やいかに思ひ出すら海ノ
なき事

今業　おもい出ル事ハ世ノ人ノ次ノ方ノ国寺　惠昌
○鶴越の道ヲ通ル人ハ谷ノ北ノ方ヲ通ル
一ノ谷ノ戦場ヲ通ル人ハ谷ノ北ノ方ヲ通ル
俗ニ云ル義経ノ人ハ谷ノ北ノ方ヲ通ル
急ル拉歴ヲ見ル人ハ谷ノ北ノ方ヲ通ル

一一の谷　湯沢ヨリ六十町

一谷の長さ四十余町弐拾九間　巾
九十余二の谷ヨリ巾二十四十間
一　安徳天皇御遷幸陣所
寿永三年平ノ永一の谷ノ陣所山ノ上ノ皇居ノ
一き平ノ盛ノ三方ノ方ノ谷ノ狭ノ谷ノ流ハ二の谷ノ

谷又一谷三の谷のうよ法勢陣屋の迹あり山下を流れ乃
上野と云
戒限けぬ流れの森の森ぐらをとゝ城あり漁師の
二ノ谷の七さ三十余よこ八ゟ九ゟ谷ゟ流れ十ゟ
余一ノ谷二ノ谷の ゟ二十四十ゟ餘山ゟふ 坂落 巖石流
険阻あり
三の谷七さ二十余横十九ゟ九ゟ谷ゟ流れきたる二ノ谷
十ゟ余二ノ谷と三の谷とゟ乃ゟ武
一 敦盛落 三の谷の間往還より上て
太夫平敦盛 寿永三年辰二月七日一の谷落城の日敦盛
次郎 熊谷 河原の小牡丹十六歳 空顔瑞清大居士

山石塔あり 蟹の爪形にして見渡すべし立ちたり
高さ一丈一尺 臺石曲尺四方五尺ありし
○又山路の上に小さき塔あり 井戸あり

敦盛石塔

昔斯地有戰場名 流血染殘嬾木櫻
須磨浦風散花夕 恰如熊谷打敦盛

休

一 鉢伏峯 三ノ谷の上といふ
菅神功皇后夷歌を退治ありし山岳とぞ
士卒と集めおのれ甲冑をぬきて地に伏名軍功を語れ
ども依て鉢伏乃峯と云 冑より盛を伏たるなり
一 須まの浦 無所分一里半余 東西濱にて今村に

屋と川口とをかりて川あり

十載 [illegible] 人も

拾イ 白浜義為てと云くかたをかたの浦へ

須磨の海邊をしけ[illegible]

○隱江　須磨の邊ノ云　○摂津まの浦

六帖 [illegible]

万葉 [illegible]

一境川　兵庫ノ二里

摂津と播磨との境なり

村ハ東生田の杜を過ると西播磨と限つく

ほ東城内と境川ノ境　村ハ拾千斗　西[illegible]

年山奉行一二のうけ先[illegible]あり[illegible]

○境川ノ西播磨ノ国　海上三里程

寛永三甲辰　二月七日一の若合戦年寄衆ノ死の人々

と云　二月ノ[illegible]元年

一[illegible]　一[illegible]

一[illegible]　一[illegible]

一[illegible]　一[illegible]

一むさしのの[illegible]　一[illegible]

一[illegible]　一[illegible]

伯大将ハ一[illegible]

山[illegible]ノ家[illegible]の[illegible]元二十余人と[illegible]

洲くの数の積りと寛永七庚寅年まで

一 綾蔵の白鞘　三百七十九両
一 綾海の長剣　三百六十両余
一 一遍上人　四百二十三成
一 同軍竜上人　十六年成
一 信濃公薨　六百三十四成
一 同　石清水　四百二十六

一 茶仙の　九百八十四両
一 神皇の長剣　三百六十両余
一 須広る　八百二十三両
一 大夫殺る　七百二十三両
一 一の岩城　六百五十四成
一 行平　八百二十四両
一 菅丞相　八百十年余

矢田部郡丹生山田の庄旧跡二ケ所　兵庫より北三里山中

一 梅雨井　京野村栗花落氏の宅よあり

水の湧出る間巾五尺余直三尺深さ三尺ばかり水涸しまゝ入れ
ば梅雨に入て必水湧き出るゆえ水口とゝのゝて入れ乃日数を
経ては栗乃花の落る時節に成雨の時節あり毎年三度に
俗り花落れば姫とゝ姫祖山田左衛門尉真勝八四十七代廃帝
天皇の御宮朝廷よりはるゝ横萩右大臣豊成の子乃息
女白滝姫を恋慕くゝ云伝つゝ白たき一日の和歌をおく
ば

中ねひめの姫

雲ぞたゝ白滝姫の袖のうへ恋ろ尚男よ
とゝとて、なびかぬ男と云て誰面ゆゝを三八なをあこゞ五ゆ

是より返事ハ出ハ得ぬと申されハ
こゝ段乃稱ゝ
とまておそりを色ハ年成のきそう彼ゞ心ばゝ
終ゝ帝小ぶ
ゝ天國乃御祝をゝ
三ゝ勢の門外ゝ
に段むり紙て叢祠
おゝ不知りて梅函を知むむ
一鷺尾旧迹　下村
家記　桓武天皇の皇子葛原親王十四代安濃ハ三良貞盛
孫奏名ハ良清綱ゝ始て鷺尾の姓をあゝ三ゝ

兵庫十景の題 扶桑名勝詩集ニ出ル

藪梅早春　　湊川清流　　經島妹月
兵庫帰帆　　福原旧都　　布引飛瀑
廣田神社　　和田岳松　　武庫暮雪
生田晴嵐

須磨浦十景乃題 同

若木櫻花　　上野夏艸　　関屋間月
兵庫飯帆　　後山帰樵　　武庫晴雪
塩屋暮煙　　須广寺鐘　　一谷古戦
磯馴松風

福原三十三番観音札所

一番 兵庫 菜仙寺　　二 東尻池村 法立寺　　三 駒ヶ林 海泉寺
四 駒ヶ林村 慈眼菴　　五 駒ヶ林村 松源菴　　六 同 松月菴
七 野田村 正福寺　　八 東スミ村 浄徳寺　　九 スミ寺 福祥寺
十 大手 勝福寺　　十一 板宿村 禪昌寺　　十二 湊田村 妙示寺
十三 長田村 福壽菴　　十四 夢ノ村 長福寺　　十五 島原 願成寺
十六 石井村 灵善寺　　十七 平ノ村 東福寺　　十八 荒田村 宝池院
十九 坂本村 龍泉寺　　二十 花熊村 福徳寺　　廿一 兵庫 極示寺
廿二 兵庫七ノ三ヤ 神宮寺　　廿三 兵庫 西光寺　　廿四 同 恵林寺
廿五 兵庫 法界寺　　廿六 同 来迎寺　　廿七 同 金光寺
廿八 同 福厳寺　　廿九 同 福海寺　　三十 同 永福寺

兵庫から法方へ

廿一 兵庫 能福寺		廿二 真福寺	廿三番 真光寺
一手あかたう、	六丁	一さびえん、	二リ余
一いくさ、	廿六丁	一さよりたう、	二丁
一布川道、	一リ余	一ふきのとき、	五丁
一いたづら法師	三リ	一あがさ、	廿丁
一おやさん、	二リ半	一ゆざい、	一リ
一ミうげ、	三リ	一すきぞく	一リ半
一あーや、	四リ	一一のくま	二リ
一西のこや、三次	五リ	さう川、	
一京、	十九リ余	一ちりま	五リ
一伊せ、 京迄リ	九十二リ	一あーー、三次	七リ
一江戸、 なんば	百廿二リ	一三木、	十四リ
		一ひらく	

一丹ま宮、村くらかふ	三リ	一ぶぢのくち	
一ありま、	七リ（ハ）	一むろ、	廿リ
一三田、	七リ	一とも、	五十リ
一こやの、	七リ	一ゑびま、	九十リ
一石橋、	七リ	一下の関、	百三十五リ
一うんぎき、	八リ	一かろ、	百三十八リ
一大坂、	十リ	一長さき、	二百九リ

文福原ハ都跡兵庫ハ前後ハ名高キ古
迹あ梨さ右ハ世知るし名所多ーー事といへども
未業界とすら絶書も其僕連年成む毋と
志の為ハ近世國花萬葉集摂州群談の書
等行き〻者の詳ハ有と雖しおのく
大部ハ已に廢するに惑ふ次第者又悔ふ脱漏
訛謬あるもあり是あ稱い愈止事と得ざるあきこ
を遂ずるこ小快ふ緩江都旅寓の中に於く
梓ハ鏤道知遣ハ倘ハ

寶永七庚寅八月良旦

摂州兵庫津
菊屋新右衛門

下野宇都宮住人

井上寅治郎春韶求之

旨文政十二己丑月六日出立

西国三十三所巡拝

七大寺巡拝

伊勢国九州